

■しずだいで産学連携メールマガジンVol. 82

2014年10月21日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、関川純哉先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「静岡大学との連携による新技術説明会」を開催します
2. 静岡大学・中日新聞連載講座「浜松発！未来の社会」ご案内
3. 静岡大学「第13回アントレプレナー講演会」を開催します

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

---

1. 「静岡大学との連携による新技術説明会」を開催します

日時 2014年11月7日（金） 13:00～17:15

会場 JST東京本部別館ホール  
（東京都千代田区五番町7 K's五番町）

主催 国立大学法人静岡大学、独立行政法人科学技術振興機構

共催 静岡ITO

後援 独立行政法人中小企業基盤整備機構  
全国イノベーション推進機関ネットワーク

プログラム

1. 「カリウムイオンエレクトレットを用いた新しいMEMS技術の展開」  
大学院工学研究科 機械工学専攻 教授 橋口 原
2. 「表面プラズモンアンテナ付きフォトダイオードによる屈折率測定」  
電子工学研究所 極限デバイス研究部門 教授 猪川 洋
3. 「並列処理指向型FPGAアーキテクチャ」  
大学院工学研究科 電気電子工学専攻 准教授 渡邊 実
4. 「光ファイバと超音波技術を用いた超高感度3Dタッチトリガープローブ」  
大学院工学研究科 機械工学専攻 教授 大岩 孝彰
5. 「資源量の豊富な黒鉛から高品質な還元型酸化グラフェンを量産化する技術の開発」  
大学院工学研究科 化学バイオ工学専攻 准教授 孔 昌一
6. 「亜臨界・超亜臨界流体を用いる炭素繊維強化プラスチックのリサイクル」  
大学院工学研究科 化学バイオ工学専攻 助教 岡島 いづみ
7. 「環境データを高精度・高速に予測可能な機械学習システム」  
大学院情報学研究科 准教授 峰野 博史

参加費 無料

定員 150名

詳細/申込 <http://jstshingi.jp/shizuoka/2014/index.html>

問合せ先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構

TEL 053-478-1702 FAX 053-478-1711

E-mail ip-office[at]cjr.shizuoka.ac.jp

科学技術振興機構 産学連携支援グループ

TEL 03-5214-7519 Fax : 03-5214-8399

E-mail scett[at]jst.go.jp

---

2. 静岡大学・中日新聞連載講座「浜松発！未来の社会」ご案内

日時 第2回：2014年11月8日（土） 14:00～16:00  
第3回：2014年12月13日（土） 14:00～16:00  
第4回：2015年1月10日（土） 14:00～16:00  
第5回：2015年2月14日（土） 14:00～16:00

会場 静岡大学浜松キャンパス 工学部5号館システム工学科棟2階21教室  
（浜松市中区城北3-5-1）

主催 国立大学法人静岡大学、中日新聞東海本社

テーマ  
第2回「地球への帰還  
～大気圏突入環境を模擬できるレーザープラズマ風洞の開発～」  
大学院工学研究科 機械工学専攻 准教授 松井 信  
第3回「花も進化する ～花は分子によって環境に適応している～」  
創造科学技術大学院 工学研究科 教授 渡辺 修治  
第4回「新たな学び方 ～知識創造型の教育への転換～」  
大学院情報学研究科 教授 大島 純  
第5回「光でがんを勝つ ～低侵襲がん光治療～」  
大学院工学研究科 化学バイオ工学専攻 准教授 平川 和貴

参加費 無料  
定員 100名  
詳細 <http://Lc.shizuoka.ac.jp/>  
問合先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係  
TEL 054-238-4817 FAX 054-238-4295  
E-mail LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

申込先 ウェブサイト <http://Lc.shizuoka.ac.jp/>  
FAX 054-238-4295  
メール LLC[at]entry.Lc.shizuoka.ac.jp  
葉書 〒422-8529  
静岡市駿河区大谷836

---

### 3. 静岡大学「第13回アントレプレナー講演会」を開催します

日時 2014年11月13日（木） 講演会 15:00～16:50 [受付14:30～]  
交流会 17:00～

会場 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館  
（静岡県浜松市中区城北3-5-1）

講演 「これからは光産業が時代を制する  
－光とエネルギー・環境・生物・健康・医療…－」

講師 株式会社光と風の研究所  
代表取締役 堀内 道夫 氏（静岡大学工学部卒）

入場料 無料  
詳細 <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>  
主催 静岡大学イノベーション社会連携推進機構  
共催 浜松工業会・静岡大学産学連携協力会  
申込・問合先 静岡大学イノベーション社会連携推進機構  
TEL 053-478-1444 FAX 053-478-1711  
E-mail antre[at]cjr.shizuoka.ac.jp

---

《 みんなのコラム -76- 》

記：工学研究科 電気電子工学専攻 准教授 関川純哉

私の研究室では、電気接点の接触現象とアーク放電について研究しています。電気接点を半導体スイッチに置き換えればすべての問題は解決しそうですが、実際にはまだまだ多くの場面で使用されています。それは、同一の機能を半導体素子で実現する場合に比べてコストが安いことと、電氣的に完全に切り離せる安全面でのメリットがあるためです。最近では、電気を駆動用使用する自動車の普及や、家庭用発電システムの普及などにより、新たな電圧領域で使用される直流回路を、安全確実に開閉するためのデバイスの開発が盛んです。

このような背景のもとに、地元の企業の皆様だけではなく、全国から接触や放電に関する技術相談が舞い込んできます。その中で、技術相談として一度だけ相談にこられた後、その後どうなったのかなと気になることがあります。急ぎの原因究明と対策が必要なことが理由だと思えますが、継続的な産学連携活動ができれば、より深くその事象を理解でき、企業の皆様の技術力の向上にもっと貢献できるのではないかと考えております。

これまでに、弊学の産学連携コーディネータの支援を受けて、多くの企業の皆様のご相談を受けて、問題解決に向けてのコメントやアドバイスをさせて頂く機会や、共同研究としてさらに深く現象や理屈についての理解を深めることができる機会がありました。これらの機会により、私自身も多くの実際の事象に直接関わることで貴重な知見を得ることができ、研究活動に生かすことができています。

電気接点の接触や、接点間で起こる放電現象についての問題がありましたら、お気軽にご相談ください。その先の問題の本質の把握と解決に向けての、企業の皆様との産学連携ができる機会を楽しみにしております。

---

#### << 編集後記 >>

今月1日、静岡大学浜松キャンパスの附属図書館分館・学生支援棟が改築されて新たにオープンしました。

今回の改築は、建物の老朽化に伴い行われたもので、学内の学生・教職員だけでなく、学外の研究者や技術者、地域にも開放する設備として整備しました。これにより、地域産業技術の発展に寄与するとともに、研究や教育にかかわる様々な人との出会いの場として多くの方に利用いただきたいと考えています。

1階には広々としたエントランスと学生支援のための窓口、2階には地域連携を図る地域産業史エリア、多文化交流エリアをはじめとしたインターナショナルなアクティブラーニングスペース、セミナールーム兼CALL教室等図書館機能が配置され、3階には事務・図書館双方からアクセス可能な大会議室を配しています。

愛称は、S-Port（エスポート）。

みなさまに親しまれる“知と交流の拠点”となるよう願っています。

\* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：原典子

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

\* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* —

Copyright (c) 2008-2014

Organization for Innovation and Social Collaboration,  
Shizuoka University. All rights reserved